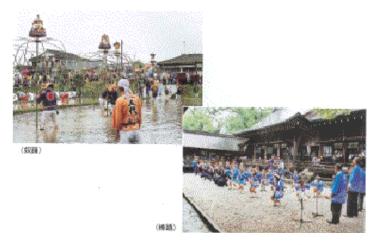
## 新田神社の御田植祭に伴う芸能(奴踊,棒踊)

【所 在 地】薩摩川内市宮内町 1935 - 2 (御田植祭に伴う芸能保存会)

【種 別】県指定無形民俗文化財

【指定年月日】昭和38年6月17日



新田神社の御田植祭は,古くは旧暦5月6日だったが,現在は入梅の前の日曜日に行われる。この日に,樋脇町倉野と川内市宮内からそれぞれ1組が出て奴 踊を奉納する。

当日の朝,新田神社の下にある保食神社で清めた苗を神田に運び,白衣姿の早男,緋の袴をつけた早乙女が田植えを始める。すると神田の両側に控えた田植仕事着姿の奴たちが,竹竿の先に割竹8本をつけたバリン(馬簾)を回しながら奴踊を踊る。田植歌に合せてバリンを回すと,8本のヘギが広がりサラサラと美しい音をたてる。

また,境内では寄田町棒踊をはじめ,川内市内の棒踊も奉納される。

田植祭りにおける芸能のもっとも顕著なもので,農耕と神社の信仰をよく保っていると 考えられる。